

千両小学校



校章の由来

豊川市を4つの「ト」と「川」で表し、中央に「千両」の字を配置した図案。戦後の新学制により学校名が変わり、校章も変更された。

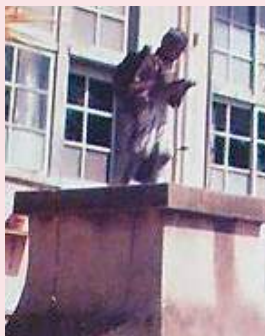
- 1873 (明 6) 市田村松永寺に第十番中学区第44番小学穂原学校ができる
- 1875 (明 8) 穂原学校出張所が善秀寺にできる
- 1881 (明14) 校舎ができ、千両尋常小学校が開校する
- 1904 (明37) 高等科ができ、千両尋常高等小学校となる
- 1907 (明40) 八幡村立八幡東部尋常高等小学校となる
- 1910 (明43) 職員住宅ができる
- 1911 (明44) 赤煉瓦の校門ができる
- 1918 (大 7) 実業補習学校が併設される
- 1922 (大11) 中古ミシンを購入し、職員が手作りで制服を作る
- 1923 (大12) 校旗ができる
- 1925 (大14) 講堂ができる
- 1934 (昭 9) 二宮金次郎の石像ができる
- 1937 (昭12) 鉄筋コンクリート製の一心橋ができる
- 1941 (昭16) 国民学校令により、宝飯郡八幡村東部国民学校となる
- 1943 (昭18) 豊川市が誕生し、豊川市千両国民学校となる
- 1945 (昭20) 疎開により、児童が急増する
- 1947 (昭22) 新学制により、豊川市立千両小学校となる
学校給食を開始する
- 1950 (昭25) 中部中学校区から東部中学校区となる
- 1954 (昭29) 校歌ができる(作詞:西口勝校長)
- 1959 (昭34) 教育用テレビが各教室に配置される
- 1961 (昭36) 農繁休暇を廃止する
- 1971 (昭46) 校旗を新調する
- 1978 (昭53) 校舎を移転する、中部中学校区にもどる
- 1981 (昭56) 開校百年式典が開かれる
- 1993 (平 5) 市制50周年ふるさと子ども劇場で「犬頭の糸」を発表する
- 2001 (平13) わくわく生き生き事業として「にこにこ川」ができる



増築後の校舎(M42～)



改築後の校舎(S31～)



二宮金次郎像

本校の前身は、明治6年にできた第十番中学区第44番小学穂原学校に遡る。明治14年には現在の千両保育園付近に千両尋常小学校が開校し、昭和53年に現在の位置に移転した。移転時に校区が拡張し、150名の児童が編入した。同時に、東部中学校区から中部中学校区にもどった。児童数は、昭和56年の397名を最多として、徐々に減少し、平成27年7月末現在で113名となっている。外国籍児童が多いのも本校の特徴の一つである。豊川市の北部に位置し、自然に恵まれた環境である。学校の北側には台の山があり、展望台からは三河湾が見える。「新入生を迎える会」や生活科・理科などの授業でも利用する。



講堂で使われていた柱時計



八幡東部尋常高等小学校時代の校章



卒業生(S10)



麦刈り(S30)



道路作業(S30)



卒業証書(M36)



修学旅行・伊勢へ



学校の記録



M42増築校舎の鬼瓦



大正時代の学歴簿



新しい仲間との出会い

「学校の歴史を学ぶ会」から

山本清氏(S15年度卒)、真河則男氏(S54年度卒)を講師としてお招きした。それぞれ、戦時中の様子、学校移転当時の様子を中心として、小学生時代の思い出をお話いただいた。

- ・せんそう中は食べ物になかったなんて、かわいそうだと思います。(3年生児童)
- ・くわがたを赤白ほうしに入れてかぶったなんて、びっくりしました。教えていただいた「ふるさとの話 千両」という本を、読んでみたいです。(4年生児童)

